



2026年愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた選手強化について

資料5-2-2

スポーツ庁

2026年愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会は、**32年ぶりの自国開催（アジアパラは初開催）**であると共に、オリンピック・パラリンピックに次ぐ**大規模な国際総合競技大会として国民の皆様にとッパスリートが躍動する姿を直接感じていただく絶好の機会**である。同大会の成功にはアスリートの活躍が必要不可欠であり、関係団体・機関が一丸となって選手強化に全力で取り組む。

（参考）「第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会に向けた取組について（要望書）」日本オリンピック委員会、日本パラスポーツ協会（令和5年11月2日）

1. 愛知・名古屋大会を、ロサンゼルスオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国際競技力向上における**最重要マイルストーンの一つとして位置付け**、日本代表アスリートの活躍を実現する観点で実施される、**計画的な選手強化活動を促進、支援する。**

日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会（JPC）、中央競技団体（NF）が総力を挙げて選手強化を行い、**多数のメダル獲得が期待できる強力な日本代表選手団を編成**する。

これに対し、**スポーツ庁の競技力向上予算や日本スポーツ振興センター（JSC）によるハイパフォーマンスサポートを通じた支援**を行う。

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
★パリ大会		★愛知・名古屋大会		★ロス大会
	活躍基盤確立期		ラストサポート期	

2. 愛知・名古屋大会で実施される**非オリンピック競技**に関しては、愛知・名古屋大会に向けた特例的な措置として、**スポーツ医・科学サポート等をJOC・JSCによる共同プロジェクトとして実施する。**（※アジアパラ競技は全てパラリンピック競技）

※非オリンピック競技：空手、ソフトテニス、ブレイキン、武術太極拳、eスポーツ、カバディ、セパタクロー、クラッシュ、柔術（下線競技のNFはJOC正加盟団体）

JSCによる医・科学、情報等のサポート対象拡充

JSCがオリパラ競技に対し実施してきた医・科学、情報等のサポートの対象を、JOCと共同して**非オリンピック競技にも拡大**。

（例）栄養、心理、動作分析、フィットネスチェック等

JSCによるNFにおける選手強化活動への支援の拡充

- ・JOC正加盟団体に対し、競技力向上事業助成金により支援。
- ・R7～8に限り、助成金額をオリンピック競技並みに引き上げ。

- ・JOC正加盟ではない団体に対し、スポーツ振興基金助成により支援。
- ・R7～8に限り、JOCを通じた支援を行う助成区分を新設し、助成率を引き上げ。
（助成率）：2/3 → 9/10

* 更に、**2026年の大会当該年においては、最終準備を行う日本代表選手団のサポート拠点を名古屋に設置**する方向で検討する。